

町営上高野団地で餅投げ

8月23日、町営上高野団地の建設に伴い、施工業者の(株)小笹建設(八代市)、(株)米本工務店(八代市)が地域住民と上高野団地入居予定者を招いて上棟式と餅投げを行いました。餅投げには、子どもから大人まで約50人が参加し、落ちてくる餅を楽しみながら拾いました。参加者は、「童心に返って楽しめた。こういうイベントで久しぶりに会う人もいてうれしかった」と満悦の様子。上高野地区の藤本悟区長は「上高野団地の入居者には、地域の一員として、お互いに協力していきたい」と話しました。



落ちてくる餅をナイスキャッチ!

子ども英語劇~「えんどう豆の上に寝たお姫様」

8月24日、第25回御船町子ども英語劇場がカルチャーセンターホールで上演されました。今回の英語劇は「えんどう豆の上に寝たお姫様」を現代風にアレンジされたミュージカルで町内の小中学生42人が演じました。練習は6月から開始され、本番1週間前からは、アメリカモンタナ州のミズーラ子ども劇場所属俳優2人による指導が行われました。劇では、色とりどりの衣装とメイクで登場した出演者が、セリフと歌をピアノの伴奏にあわせてすべてを英語で演じ、約70分の劇は幕を閉じました。



ホームワイドで24時間チャリティイベント

8月24・25日、ホームワイド御船店(林浩二郎店長)で「24時間テレビ-愛は地球を救う」チャリティイベントが開催されました。イベントでは、美容師が行う簡単ヘアカット体験や歯科医師によるお口の相談会、ピワキュー(温灸)など、さまざまな団体が参加。募金ブースでは、今年で11年目となるみふね福祉絆塾や中辺田見老人クラブ(馬場洋一郎会長)が担当し、地域の人たちに笑顔で声掛けをしていました。林店長は「地域と一緒に活動できることに助け合う心を感じます。今後もこのホームワイド御船店がコミュニティの場となってもらえれば」と話しました。



たくさんのイベントで笑顔あふれる参加者たち

吉無田の大自然でMTBトレイルライド

8月18日、吉無田高原夏のMTB(マウンテンバイク)トレイルライドが特定非営利活動法人愛郷吉無田(渡邊秀和理事長)を主催に開催されました。県内外から多くの参加があったこのイベントでは、吉無田の大自然の中をマウンテンバイクで出発。コース途中の休憩ゾーンでは、吉無田ならではの、地元産きゅうりやトマトが参加者にもてなされ、「おいしい!」と絶賛の声が上がっていました。初めて参加した武石蒼惟さん(大分県)は「道の起伏が激しいところがあり、きつかったけど楽しかった。これがきっかけに自転車にはまりそう」と今後のMTBにワクワクしていました。



自然の中での走りを楽しむ参加者

恐竜博物館に拡大読書器を贈呈

株式会社日本テレソフト(金子秀明代表取締役社長)は、8月20日、町恐竜博物館に拡大読書器を寄贈しました。この読書器は、文字の大きさを変えるだけでなく、コントラストや配色なども変えることができ、目の不自由な方が本や書類を読む際に必要となる装置です。恐竜博物館では、すべての方が利用しやすい博物館「ユニバーサルミュージアム」を目指して改善を進めており、この取り組みに読書器を役立てていきます。金子社長は「さまざまなところでバリアフリーができれば。工夫して、楽しんで使ってください」と話しました。



拡大読書器を贈呈した金子社長(右)

商店街で伝統ある地蔵祭り

8月23日、地蔵祭り(町商工会女性部・門岡久子部長)が御船本町通りで開催されました。これは、江戸時代の中頃から子どもたちの成長と商売繁栄を祈って始められた伝統ある祭りで、通りには御飯屋が立ち並び、主役のお地蔵さまが出座。地域住民による造り物では、アニメのキャラクターやカッパなど、6基が飾られ、見物客を楽しませていました。近年、造り物の数が減りつつあることから、来年度の本格始動に向け、今年は地蔵祭り造り物準備委員会を発足。門岡部長は「伝統ある造り物を絶やさないために今後は、さまざまな団体にも声をかけていきたい」と話しました。商工会裏では、令和の時代に願いを込めた風船とぼしを実施。花の種が付いた風船100個にそれぞれ願いを書き、一斉に大空へと放ちました。



1.集めたスタンプラリーで抽選券をget!
2.二丁目の造り物 3.金賞に輝いた1丁目の造り物 4.願いを込め飛ばす100個の風船 5.お地蔵さんに手を合わせる子どもたち 6.暗い夜道を照らす奉納の灯り